



子供たちの「わかった」「できた」を増やす 自立活動の「基本のキ」

「自立活動」は、特別支援学校の教育課程において特別に設けられた指導領域です。

小・中学校の特別支援学級や通級による指導の教育課程については、対象となる児童生徒の障害の種類や状況等に応じて「特別の教育課程によることができる。」とされています。（学校教育法施行規則第138条・140条）これを受けて、特別の教育課程を編成する場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を参考とし、「自立活動」の内容を取り入れるなどして、実情に合った教育課程を編成する必要があると示されています。通常の学級に在籍している、何らかの支援が必要な児童生徒にも「自立活動」の内容を参考にして指導内容や指導方法の工夫を行うことが望まれています。

そこで、今号では「自立活動」の指導が、児童生徒の「わかった」「できた」を増やし、効果的に進められるよう、おさえておきたいことについてまとめました。

自立活動で何を教えるのですか？

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（平成30年3月）に書かれている内容が基本となります。

自立活動の目標は何ですか？

個々の児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培うとされています。

自立活動の内容は何ですか？

個々の障害の状態や特性および心身の発達の段階等に応じた課題に対応できるよう、人間として基本的な行動を遂行するために必要な要素と障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素を検討して、その中から代表的なものを項目として6つの区分に分類・整理したものです。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 健康の保持 | 2 心理的な安定 |
| 3 人間関係の形成 | 4 環境の把握 |
| 5 身体の動き | 6 コミュニケーション |

どの児童生徒も自立活動を行うのですか？

自立活動を行う対象は、特別支援学校や特別支援学級在籍および通級による指導を受けている児童生徒です。ただし、通常の学級にも通級による指導の対象とはならないが、特別な配慮を必要としている「困っている児童生徒」がいます。したがって、自立活動の視点をもって指導にあたるという点は、すべての教師が意識したいことです。

障害による困難さのある児童生徒のための

「自立活動動画活用の手引」

CONTENTS このような動画が見られます

- ・見え方等の困難さに対する指導・支援（視覚障害）
- ・聞こえ等の困難さに対する指導・支援（聴覚障害）
- ・日常生活動作等の困難さに対する指導・支援（肢体不自由）
- ・話し言葉によるコミュニケーション等の困難さに対する指導・支援（言語障害）
- ・感情のコントロールや認知機能等の困難さに対する指導・支援（発達障害）
- ・身体や心の調子等の困難さに対する指導・支援（病弱・身体虚弱）

御活用ください！

動画はこちらから
(チーテレスタディーネット)



学校訪問で見つけた

キラッ ✨ と光る手立ての工夫 〈その①〉

〈中学校 知的学級 数学 「魚の重さをはかろう」〉

重さの概念や比較の仕方に関する学習で、一番重い魚を釣ることができるのは誰かという魚釣りゲームをしながら展開をしていました。生徒自身が釣りあげた感覚や大きさなどから魚の重さを予想した後、秤を用いて重さをはかったり、不等号を用いて表したりしました。



この授業では、次のような手立ての工夫がありました。

- ◎意欲的にかつ体験的に取り組めるように、具体物を用いて学習をした。
- ◎生徒の実態に合わせて、デジタル、アナログ両方の秤を用意した。
- ◎視覚的に大小がわかりやすい不等号の解説図を用意した。



また、小さな目盛りには数字を書き、読み取りやすくした。

生徒の興味・関心をとらえて教材に取り入れることで、いきいきと主体的に学習に取り組む姿が見られました。



〈小学校 自閉症・情緒学級 自立活動 「友達とおもいや考えを伝え合おう」〉

簡単なゲームやクイズなどで友達とかかわる楽しさを味わいながら、話し合うことの大切さに触れることで、自分の考えを伝えたり、相手の話を聞いたりすることができるように単元を設定していました。その展開の中では、次のような手立てがありました。

- ◎既習事項やポイントを掲示して、視覚的にわかりやすく示した。
- ◎活動の見通しがもてるように、事前に内容や時間を示した。
- ◎児童が自身の変容を実感できるように、振り返りを行った。
- ◎児童が取り組む姿を適切に評価し、称賛していた。

継続した指導を行うことで、児童同士の積極的で適切なかわりが増えていく姿が見られました。

コミュニケーションや集団参加、ルール理解などをねらう自立活動で扱う題材は、クイズやカードゲームなど様々ですが、対象児童生徒の実態やねらいにぴったりと合ったものを選ぶことが重要です。児童生徒の今できることの少しだけ先に目標を設定して、簡単すぎず難しすぎない学習を計画することが効果的です。

かくにん	さんせい	ことば	
○確認と賛成の言葉			
「じゃあ、～でいいかな?」「OK」。			
「いいよ」「そうだね」。			
ていあん	ことば		
○提案の言葉			
「～だと思うけど、どう?」。			
「ほくは～をやりたいけど、どう?」。			
「～してみない?」「～はどうか?」。			